

豊橋市文化財保存活用地域計画【愛知県】

【計画期間】令和8～17年度（10年間）
 【面積】262.0km²
 【人口】約37万人

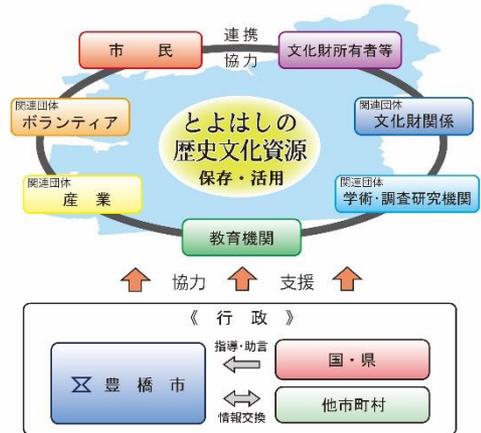


指定等文化財件数一覧 （令和7年(2025)3月31日現在）

文化財の種類		国指定・選定	国記録選定	県指定	市指定	国登録	県登録	計	
有形文化財	建造物	2	—	1	5	22	0	30	
	美術工芸品	絵画	2	—	3	19	0	0	24
		彫刻	5	—	3	14	0	0	22
		工芸品	1	—	2	13	0	0	16
		書跡・典籍	3	—	4	5	0	0	12
		古文書	0	—	0	6	0	0	6
		考古資料	2	—	1	2	0	0	5
歴史資料	0	—	1	4	0	0	5		
小計	15	—	15	68	22	0	120		
無形文化財	芸能	0	0	0	0	0	0	0	
	工芸技術	0	0	0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	—	1	2	0	0	3	
	無形の民俗文化財	1	1	0	3	0	0	5	
記念物	遺跡(史跡)	3	—	2	9	0	0	14	
	名勝地(名勝)	0	—	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)	動物	2	—	3	6	0	0	11
		(内訳)							
		植物	2	—	2	6	0	0	10
地質・鉱物	0	—	1	0	0	0	1		
文化的景観	0	—	—	—	—	—	—	0	
伝統的建造物群	0	—	—	—	—	—	—	0	
合計		21	1	21	88	22	0	153	

指定等文化財153件、未指定文化財2,081件

推進体制（概念図）



歴史文化の特性

（1）豊川との共生と、流域に生まれた「徳国」

中央構造線に沿って三河湾に流れ込む豊川は、洪水による大きな被害をもたらす一方、肥沃な土壌と豊富な水を供給することで、流域の生産力を支えてきた。豊川の恵みを糧に流域は発展し、古墳時代に「徳国」が誕生した。

（2）三河湾と表浜、その恵みと開発

内海（三河湾）と外海（太平洋・遠州灘）の二つの海に接する本市は、海からの恵みを享受してきた。三河湾の沿岸では、豊かな海の恵みを受けると同時に、遠浅の海浜を利用して新田開発などを進めてきた。表浜と呼ばれる太平洋沿岸地域は、中世には段丘崖下の海岸沿いに伊勢街道が通り、寺院や城が築かれた。その後は津波などの被害を受け街道や集落は段丘上に移り、今では雄大な自然景観を楽しむことができる。

（3）三遠国境の自然と歴史

市域北東部に南北に連なる弓張山地は、湖西市側からは湖西連峰と呼ばれ、石灰岩やチャートなどの堆積岩で構成された急峻な山々である。古くは三河国と遠江国の国境、現在は愛知県と静岡県の県境である。人々は国境の山地と向き合い、歴史文化を育み、独特な産業を生み出してきた。

（4）交差する海・川・陸の道

本市は、東海道や本坂通、豊川や三河湾を介した船運など多くの交通路が交わる。交通の結節点である地の利を生かし、他地域との繋がりを持つなかで、本市の産業と文化が発展した。

（5）飽海・今橋・吉田と続く東三河の中心地

豊橋公園や豊橋市役所などが位置する場所は、地盤が比較的安定した平坦な段丘上にあり、水害などの災害を受けにくい地形にある。この辺り一帯は、古くは飽海や今橋、吉田などと呼ばれて、古代に渥美郡衙が設置されて以来、現在に至るまで大きく場所を変えることなく、常に東三河の政治や経済の中心だった。

（6）都市の近代化と農業の発展

明治以降、本市は都市機能整備と農業基盤の整備を進め、近代都市へと発展した。そこには、戦前の軍隊設置と戦後の旧軍用地活用、牟呂用水と豊川用水の建設が大きな役割を果たしている。



豊川 悠久の流れ



吉田城址と豊川の流れ

【基本理念】歴史文化資源を探り、守り伝え、活かして、未来をつくる とよはし

基本的な
方向性

課題

方針

全般的な措置の例

(1) 歴史文化資源を探る
— 調査・研究 —

- ・担当職員の調査・研究能力が不足
- ・歴史文化資源保護体制が十分に整っていない
- ・関係部署・関係機関との協力体制が未構築
- ・既往の歴史文化資源調査の精査と活用が不十分

など

- ・担当職員の調査・研究能力の向上
- ・歴史文化資源保護体制の整備と充実
- ・関係部署・関係機関との協力体制の構築
- ・既往の歴史文化資源調査の精査と活用

など

11 市内祭礼調査

市内の祭礼の調査を行うと共に調査成果を報告書などで公開し、文化財指定等を積極的に推進する。

- 取組主体：市・文化財所有者等
- 実施期間：R8～17



豊橋祇園祭（本祭）

(2) 歴史文化資源を守り次世代に伝える
— 保存・継承 —

- ・文化財保護に関する諸手続きについて一層の周知が必要
- ・指定等文化財の保存の方針と手法が定まっていない
- ・文化財保存に係る所有者負担が重く、文化財修理等の補助・助成制度への周知が不足
- ・歴史文化資源保護の担い手育成が不十分

など

- ・文化財保護に関する諸手続きの周知
- ・指定等文化財の保存手法や方針の決定
- ・文化財所有者の負担軽減と文化財保存修理の補助・助成制度の周知
- ・歴史文化資源保護の担い手育成の促進

など

41 ボランティアの育成と協働

ボランティアを育成し、歴史文化資源のガイド、調査・研究、活用事業への支援など、各種の自主的な活動の場を設ける。また、天然記念物に係るボランティアを育成し、市民が主体となって葦毛湿原などの保全を行う。

- 取組主体：市・関連団体（ボランティア）
- 実施期間：R8～17



葦毛湿原

(3) 歴史文化資源を活かす
— 活用 —

- ・情報発信の一層の充実が必要
- ・歴史文化資源の公開・整備が一層必要
- ・歴史文化資源の普及啓発の一層の促進が必要
- ・学校教育との一層の連携が必要
- ・歴史文化資源を活かした町並み整備と景観保全、そして産業分野との連携が一層必要

など

- ・情報発信の充実
- ・歴史文化資源の公開と整備の促進
- ・歴史文化資源の普及啓発の促進
- ・学校教育との連携強化
- ・歴史文化資源を活かした町並み整備と景観保全、そして産業分野との連携促進

など

58 町並み整備と景観の保全

二川宿などの歴史文化資源と調和した町並み整備を促進し、景観の保全に努める。

- 取組主体：市・市民・関連団体（産業）
- 実施期間：R8～17



二川宿と東海道

優先的な措置について

○整備が見込まれる歴史文化資源と関係施設などを取り上げ、特に力を入れて取り組むものを優先的な措置として設定する。この優先的な措置には、既に触れた全般的な措置で取り上げたものを横断する内容が含まれる。対象は下の①～⑮である。

【対象】①国史跡・馬越長火塚古墳群と北部地域、②国史跡・瓜郷遺跡、③市史跡・吉田城址と城下町、④国史跡・高山蛇穴と高山、⑤国天然記念物・葦毛湿原、⑥豊橋市文化財センター、⑦豊橋市美術博物館、⑧二川宿と豊橋市二川宿本陣資料館、⑨豊橋市中央図書館、⑩豊橋市自然史博物館、⑪豊橋総合動植物公園、⑫国登録有形文化財・豊橋市公会堂、⑬国登録有形文化財・豊橋市民俗資料収蔵室、⑭国登録有形文化財・豊橋市上水道施設 下条取水場旧ポンプ室ほか、⑮個人等が所有する歴史文化資源

● 豊橋市文化財保存活用地域計画【愛知県】

関連文化財群と文化財保存活用区域

関連文化財群1 豊川と穂国の誕生

古墳時代の東三河では、古代三河国の前身である穂国と呼ばれる領域が形成され、優れた古墳文化が成立した。これを支えたのは、豊川がもたらした肥沃な土壌に基づいた、高い農業生産力だった。



馬越長火塚古墳

関連文化財群2

三河湾と表浜がもたらしたもの

本市は、三河湾と太平洋の二つの海に接しており、ある時は海に適応し、ある時は海を開発しながら歴史を紡いできた。そのため、三河湾沿岸と太平洋沿岸の表浜では、それぞれ特徴的な歴史文化が生まれた。



表浜

関連文化財群3

豊かな山の自然 - 石巻山と葦毛湿原 -

チャートや石灰岩など秩父帯の岩石で構成される弓張山地は、湿地群などの多様な生態系を生み出すと共に、石灰生産や採石の産業を生み出した。



石巻山と弓張山地

関連文化財群4

歴史の舞台となった国境の山

急峻な地形から三河国と遠江国の国境となった弓張山地は、信仰の場でもあり、多くの文化財が残されている。また、人びとが往来する国境は、戦国時代には合戦の舞台となった。



月ヶ谷城址遠景

関連文化財群5 東西・南北の交通路

古くから東海道や豊川の船運など多くの交通路が交わる本市は、人と物資が行き交う交通の要衝である地の利を活かしながら、産業と文化を発展させてきた。



前芝の燈明台

関連文化財群6 東海の要・吉田

東三河の要衝に築かれた吉田城は、今なお多くの遺構を留め、地域のシンボルとなっている。また、地域経済の中心であった吉田城下で発展した祭礼行事や芸能などが、今も受け継がれている。



吉田城址

関連文化財群7 軍隊と近代都市・豊橋

近代に本市で進められた都市基盤施設と公共施設の整備は、軍隊の設置により加速した。戦後に軍隊が解体されると、広大な軍用地を活用したまちの近代化が進められた。



愛知大学旧本館
(旧陸軍第十五師団司令部庁舎)

関連文化財群8 神野新田と近代農業

近代以降、牟呂用水と豊川用水の二つの灌漑用水は、本市の農業の発展に大きく貢献した。牟呂用水が引かれた神野新田は県内有数の穀倉地帯となり、豊川用水が引かれた市南部に広がる台地は野菜の生産が盛んになり、全国有数の農業産出額を誇る。



神野新田

文化財保存活用区域位置図



文化財保存活用区域 ①石巻地区

市街地としての開発が進んでいないため、歴史文化資源が数多く残り、景観も保全されている。古墳が集中し、西郷氏に関係する山城跡も多く残る。本坂通（姫街道）に沿って残る社寺や宿場跡と祭礼・習俗など、往時をしのぶことができる歴史文化資源が集中している。

文化財保存活用区域 ②吉田城址とその周辺

吉田城址とその城下町跡を中心に、歴史文化資源が集中する。市街地化が進む本市の中心部にありながら、城址や社寺、近代建築、旧陸軍の遺構、祭礼行事など市民から親しまれて、魅力ある歴史文化資源が数多く残る。

文化財保存活用区域 ③二川地区とその周辺

近世東海道の二川宿があった本地区には、これに関係する歴史文化資源が集中する他、古くからの社寺が存在する。また、東海道筋には浮世絵の題材となった景勝地が残る。

概要 豊川流域には弥生時代の中心的な集落遺跡が点在する。豊橋平野をはじめとする肥沃な沖積平野がもたらす高い農業生産力と、大小河川と海がもたらす豊富な資源に支えられた豊かな地域社会が形作られたことが窺われる。やがて古墳時代になると、東三河に古代三河国の前身の一つとなる穂国の領域が形成され、優れた古墳文化が展開した。「穂国」の名前の由来には豊かな稲穂の実りを象徴するという説があり、肥沃な沖積地の高い農業生産力を想起させる。また、三河湾沿岸部にも首長墳が展開することから、穂国の経済基盤は、三河湾の水産資源や海上交通にも支えられていたと考えられ、豊かな穂国の姿がイメージできる。

構成要素



関連文化財群に関する課題

- ・瓜郷遺跡の史跡指定地周辺における埋蔵文化財調査が必要である。
- ・馬越長火塚古墳群に関連する周辺の遺跡における調査・研究が不十分である。
- ・瓜郷遺跡と馬越長火塚古墳群の史跡整備が必要である。 など

関連文化財群に関する方針

- ・瓜郷遺跡の史跡指定地周辺の調査を行い、価値を明らかにする。
- ・馬越長火塚古墳群に関連する周辺の遺跡の調査・研究をさらに進める。
- ・ガイダンス施設を含めた、瓜郷遺跡と馬越長火塚古墳群の史跡整備を進める。 など

関連文化財群に関する主な措置

79 瓜郷遺跡における史跡指定地周辺の確認調査

確認調査により史跡指定地周辺の価値を明らかにすると共に、史跡の保護に努める。

- 取組主体：市・県 ■実施期間：R8～12

68 馬越長火塚古墳群と周辺遺跡に関する調査・研究の推進

調査・研究を進め、馬越長火塚古墳群の本質的な価値の向上を図る。また、関連する周辺遺跡の調査・研究を進める。

- 取組主体：市・関連団体（学術・調査研究機関）
- 実施期間：R8～17

72 馬越長火塚古墳群の修復と史跡公園整備

馬越長火塚古墳群の破損箇所への修復のほか、馬越長火塚古墳群及び関連施設を含む史跡公園に係る設計を行い、整備工事を実施する。

- 取組主体：市・市民・関連団体(ボランティア、学術・調査研究機関)
- 実施期間：R8～17



瓜郷遺跡



馬越長火塚古墳